

【3月1日（月）放送朝礼のお話】

全校のみなさん、おはようございます。いよいよ今日から1年間の最後の月となる3月になりました。

今日は、この草平小学校独自の、歴史ある「山内賞」についてお話をします。草平小学校の池西という地区に「山内慶次」という人の記念碑があることを知っていますか。

この山内慶次さんは、今から144年前の1877（明治10）年に、現在の池西地区に生まれました。お家は大変貧しく、山内さんは家の手伝いをしなければならず、なかなか学校へ通うことができませんでした。そんな恵まれているといえない環境の中でしたが、一生懸命に勉強して今の草平小学校の「尋常小学草平学校」を卒業しました。山内さんは、30歳の時にメキシコへ行き、さらにアメリカのロサンゼルスに移住しました。その頃の時代に、外国へ渡るということは本当に大変なことだったと思います。そして、アメリカで自分の農場をもって農場経営をするという大成功を収め、たくさんのお金を手にしました。

その後、日本に戻った山内さんは、「自分は家が貧しく、なかなか学校へ行くことができず苦労したが、草平小学校の子どもたちには安心して勉強ができるようになってほしい」と、手にした大金の一部を寄附してくれたのです。しかも、山内さんが、83歳の1960（昭和35）年から、89歳でこの世を去った1967（昭和42）年まで、8年間にわたりたくさんのお金を寄附してくれました。

その偉業をたたえ、1965（昭和40）年に池西地区に記念碑が建てられ、草平小学校では、「山内賞」が作られました。現在の「山内賞」は、その寄附金で、毎年卒業生に一人1本の鉛筆を贈ることに使われています。それは、山内さんが亡くなられて54年の月日が経った今も、その鉛筆は贈られ続けています。

その母校を思う山内さんへの感謝の気持ちを込めて、毎年記念碑の掃除を、池西の通学団の6年生が行うことが草平小学校の伝統になっています。先週の月曜日に、池西の6年生2名が記念碑の掃除を行いました。きれいな雑巾でしっかりと拭き上げて、お花を供えました。

また、今日は山内賞の鉛筆を6年生のみなさんにお渡ししたいと思います。

草平小学校に、このように地元のために尽くしてくれた人がいることを誇りに思い、感謝して学校生活を送りながら、卒業してほしいと思います。

6年生の皆さんも、卒業まであとわずかになりました。1年生から5年生までの皆さんに「6年生とは、最上級生とはこういうものだよ」というリーダーとしての姿を、様々な場面でたくさん見せてあげてほしいと思います。

愛知県の緊急事態宣言も昨日で解除となりましたが、気を緩めず感染防止対策をみんなで行っていきましょう。